

- えき はな しゃがい くら ちかてつ まど かがみ
1 駅のホームを離れて車外が暗くなると、地下鉄の窓は鏡になる。
- ふだん ひとご いしき おお きぎょう しごとおさ
2 普段は人込みのなかで意識もしないが、多くの企業で仕事納めとなり、▼
- つうきんきゃく すく じき まど かがみ たいあん
通勤客の少ないこの時期は 窓の鏡としばしば対面する。
- きど まえ た せんあんじょ かがみ ちが むほうび すがた ねら
3 いくらかは気取って前に立つ洗面所の鏡とは違って、無防備な姿を狙われるせいか、▼
- ふ といき ふきげん かお まち ある おどろ
いつもこんなに不機嫌そうな顔で街を歩いていたのだ、と驚くことがある。
- ふ かがみ じょうぞうき じまん しょうどくき
4 老けたなあと、吐息がもれることもある。
- なつめそそうせき しょうせつ ねこ かた
5 鏡はうぬぼれの釀造器であり、自慢の消毒器でもあると、▼
- じまん め こんりんざいしょ かんふ めっせんしょうどく きぶん
夏目漱石の小説で猫が語っていた。
- まど かがみ み
6 窓の鏡を見るたび、▼
- じまん め こんりんざいしょ かんふ めっせんしょうどく きぶん
自慢の芽が金輪際生じないよう 完膚なきまでに滅菌消毒されたような気分になり、▼
- とし せ ちかてつ みよう
年のは瀬の地下鉄は妙にほろにがい。
- にほん ちかてつ う きせつ
7 日本に地下鉄が生まれたのも いまごろの季節である。
- とうきょう あさくさ うえのかん かいとう ななねんじゅうにがつさんじゅうにち
8 東京の浅草一上野間が開通したのは 1927年12月30日、▼
- はちじゅうねん
きょうで80年になる。
- しょにち やくじゅう うまんにん きそ じょうしゃ
9 初日は約10万人が競って乗車したという。
- だいとし はじ ふ ひとびと
10 大都市のシンボルに初めて触れた人々の、▼
- ここる はず すうじ つた
心の弾みを数字が伝えている。
- べんり あし ここる はず とお
11 いまではもう、なくてはならぬ便利な足だが、心の弾みからは遠くなつた。
- じょうききかんしゃ ろめんでんしゃ の たの とかい ちほう で じだい
12 蒸気機関車や路面電車に乗るのを楽しみに、都会から地方に出かける時代である。
- み むかし さわ ちかてつ すがた しゃそう うつ
13 こう見えて、おれも昔はちょっと騒がれたのよ……と、地下鉄はおのが姿を車窓に映し、▼
- わか ひ ついおく ひた し
若き日の追憶に浸っているかも知れない。